

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 28 日現在

機関番号：15501

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20390553

研究課題名(和文) 重症救急患者の家族看護の実態調査および標準的家族看護モデルの開発

研究課題名(英文) The survey of family nursing in critical care and development of standard family nursing model

研究代表者

山勢 博彰(YAMASE HIROAKI)

山口大学・大学院医学系研究科・教授

研究者番号：90279357

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：重篤・救急看護学、家族ニード、家族看護

1. 研究計画の概要

本研究は、重症救急患者の家族看護についての実態調査と標準的家族看護モデルの開発に大別される。家族看護についての実態調査では、まず、重症救急患者家族のニーズの特徴を明らかにするために、全国の救命救急センターからサンプリングされた第3次救急医療施設で、家族ニードの調査を行う。次に、同施設で行っている家族ニーズを満たすための家族看護実践について、家族アセスメントの方法、家族の特徴的な看護上の問題点、具体的看護介入、実践の評価方法をデータ収集する。また、家族看護を行う上で看護師が抱く実践上の課題を明らかにするために、家族看護を実施している看護師を対象に調査を行う。

標準的家族看護モデルの開発では、上記調査で明らかにした家族看護の実践上の課題を解決する方策を盛り込んだ家族看護モデルを作成し、その家族看護モデルの有効性を検証する。最終的に、モデルの有効性の検証を踏まえ、モデルを改良して完成版を作成する。

2. 研究の進捗状況

CNS-FACE を用いた調査によって、重症救急患者家族のニーズの特徴を明らかにした。家族ニーズには、サポート、安楽安寧、保証、接近、情報のニーズが特徴的で、保証、接近、情報のニーズが高いことがわかった。ニーズを満たすために行っている家族看護の実際を明らかにするために、救急医療施設でインタビュー調査および看護記録からの調査をおこなった。データを専用プログラムで集計し、質的データを分析した結果、救急初療での対応、初めての面会時の家族対応、

病状説明時でのサポート、悲嘆プロセスにおける情緒的サポートなどの看護ケア実践が明らかになった。また、看護師へのインタビューによって行った調査からは、患者の病期において実践している家族ケアの特徴が異なり、「入院初期」、「治療期」、「退院・転院期」に分けることができた。これらの調査結果から、家族ニーズを満たす専門的な看護実践の構造が明確になり、入院初期の初療における家族面会サポート（特に、心肺蘇生処置中のサポート）や、終末期にある患者の家族に対する倫理的配慮とこころのケアの重要性、患者死亡後に悲嘆を示す遺族ケアのあり方などについて多くの示唆も得られた。

重症救急患者家族の看護実践についての全国規模調査からは、直接的看護実践と間接的看護実践の内容についての実態が明らかになった。

家族看護モデルについては、これまでの調査を踏まえ、アギュララの危機モデルを取り入れた標準家族看護モデルを作成した。家族アセスメントの視点として3つのバランス保持要因を設定し、それぞれの側面で家族の心理・社会的状況をアセスメントする枠組みとした。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

重症救急患者の家族看護についての実態調査については、重症救急患者家族のニーズの特徴を把握することから始まり、臨床看護師を対象に、インタビュー調査と全国調査で家族看護実践の実態と課題を明らかにすることができた。

標準的家族看護モデルの開発では、これまでの調査で明らかにした家族看護実践と実

践上の課題を解決する方策を盛り込んだモデルとして、「アギュララのモデルによるクリティカルな患者の家族に対する標準看護計画」を作成することができた。

4. 今後の研究の推進方策

作成した家族看護モデルの有効性を検証し、家族ニードを満たす概念構造をモデル取り入れた完成版を作成する。その検証に当たっては、実際のクリティカルケアの場で家族看護実践を行い評価する。

また、調査で課題となっていた終末期の患者家族ケアに関し、重症患者家族の主に終末期に対する看護の課題をリストし、この課題を解決できる家族看護の方法をケアモデルに取り入れることとする。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

①山勢善江、山勢博彰、立野淳子、クリティカルケアにおけるアギュララの問題解決型危機モデルを用いた家族看護、日本クリティカルケア看護学会誌、7巻1号、8-19、2011、査読有り

〔学会発表〕(計4件)

①山勢善江、救急・クリティカル患者の家族への病期毎の標準看護計画の作成、第38回日本集中治療医学会学術集会、2011年2月25日、神奈川県・パシフィコ横浜

②山勢善江、救急・クリティカル患者の家族への病期毎でみた看護の実際、第6回日本クリティカルケア看護学会学術集会、2010年7月16日、北海道・札幌市教育文化会館

③山勢博彰、集中治療と終末期医療－患者家族へのこころのケア体制の構築－、第37回日本集中治療医学会学術集会、2010年3月4日、広島県・リーガロイヤルホテル広島

④立野淳子、重症救急患者家族への標準看護モデルの開発－第1報－、第11回日本救急看護学会学術集会、2009年11月13日、福岡県・福岡国際会議場

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

○取得状況(計0件)

〔その他〕

なし